

水素ステーション実証モデル事業について

趣旨

- 蓄電機能を有する発電事業の可能性を見据え、企業局の電気と水を用いた、100%再生可能エネルギー由来の水素ステーションを整備し、水素の生成と利活用を通じた、水素エネルギーの実証モデル事業を推進する。
- なお、実施に当たっては、脱炭素社会構築や産業振興への寄与も見据え、民間企業や関係部局と共に、水素エネルギーの利活用並びに周知のあり方について研究する。

[参考]水素エネルギーの動向

国の動向

- 水素基本戦略を策定(H29.12閣議決定)
 - ・2020年までに160か所の水素ステーション整備、4万台の燃料電池自動車の導入
 - ・地方自治体との連携等による地域の水素需要の拡大及び需給の最適化の推進 等

全国の状況

	全 国	長野県
水素ステーション	25都道府県 101箇所	整備箇所なし
燃料電池自動車	約2,000台	保有なし

- 自動車メーカー等11社が水素ステーション整備を進めるため合同会社を設立(H30.2.20 日本水素ステーションネットワーク合同会社)

【G20（持続可能な成長のためのエネルギー転換と地球環境に関する閣僚会議）】

- ・日程 平成31年6月15,16日
- ・会場 軽井沢プリンスホテル
- ・参加者 フランス・アメリカ・イギリス・ドイツ等の環境・エネルギー分野の所管大臣及び関係機関 約50名

※燃料電池自動車を知事送迎用として活用予定

実施内容

<実証モデル事業のスキーム>



スケジュール

